

事務事業名		火葬場管理運営事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	002 自然豊かな環境の保全と創造			事業期間		予算科目				
	施策名	005 環境の保全と共生					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	003 良好な生活環境の確保			☐ 単年度のみ		01	04	01	06	01
根拠法令	墓地・埋葬等に関する法律、同施行規則、大船渡市火葬場条例、同施行規則			☒ 単年度繰返 (開始 年度～)							
所属	部課名	生活福祉部 市民生活環境課			☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度～ 年度						
	係名	環境衛生係	電話内線	27-3111 126	※全体計画欄の総投入量を記入						
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)							全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
・亡くなられた方と最後にお別れする場所としてふさわしい施設となるよう、市営火葬場(おおふなと斎苑、浄霊苑)を適切に管理する。おおふなと斎苑(立根町)は死体と動物死骸の火葬、浄霊苑(三陸町)は死体の火葬を行う。火葬業務と施設の維持管理は、指定管理者に委託している。 ・具体的な業務は、以下のとおり ①火葬業務及び施設の維持管理(清掃、草刈等)の業務委託 ②火葬場施設の整備及び修繕 ・事業費は指定管理者への委託料、施設の修繕費、光熱水費、保険料、消耗品費などに支出される。							総投入量 (千円)	事業費 内訳	国庫支出金		
									都道府県支出金		
									地方債		
									その他		
									一般財源		
									事業費計(A)		0
人件費	正規職員従事人数										
	延べ業務時間										
	人件費計(B)		0								
トータルコスト(A)+(B)				0							

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
運営委託(指定管理者)により、おおふなと斎苑は、平成23年3月10日までに死体等493件、動物139件、浄霊苑は、死体18件の火葬を行うとともに、各種設備の保守点検、清掃等を実施した。また、火葬設備や建物等の修繕を行った。		ア 火葬場稼働可能日数	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ 設備保守点検回数	
火葬場使用申請により、死体及び動物の死骸を火葬する。東日本大震災で被害を受けたおおふなと斎苑の建物等を修繕する。おおふなと斎苑及び浄霊苑にAEDを設置する。		ウ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		(6) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
火葬場の利用者		名称	
火葬場		単位	
		カ 普通炉使用申請数	
		キ 動物炉使用申請数	
		ク 火葬炉修繕予定箇所数	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		(7) 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
利用者に気持ちよく使用していただく		名称	
火葬場施設を良好な状態に保つ		単位	
		サ 普通炉使用件数/普通炉使用申請数	
		シ 動物炉使用件数/動物炉使用申請数	
		ス 火葬炉修繕箇所数/火葬炉修繕予定箇所数	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
良好な生活環境を確保する。			

(2) 総事業費・指標等の推移				年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
				単位						
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円					1,470	
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円	4,495	5,650	5,965	5,709	5,340	6,435
			一般財源	千 円	14,825	17,819	17,039	15,298	17,722	18,373
	事業費計 (A)			千 円	19,320	23,469	23,004	21,007	24,532	24,808
	人件費	正規職員従事人数	人	3	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時 間	550	400	400	400	400	400	
		人件費計 (B)	千 円	2,200	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	
		トータルコスト(A)+(B)			千 円	21,520	25,069	24,604	22,607	26,132
⑤活動指標		ア	日	304	301	304	304	303	493	
		イ	回	41	41	41	41	41	41	
		ウ								
⑥対象指標		カ	件	497	497	536	513	550	511	
		キ	件	116	116	158	137	147	139	
		ク	箇所	0	3	3	3	4	3	
⑦成果指標		サ	%	100	100	100	100	100	100	
		シ	%	100	100	100	100	100	100	
		ス	%	100	100	100	100	100	100	

事務事業ID	1446	事務事業名	火葬場管理運営事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

おおふなと斎苑は、老朽化が著しかった旧火葬場の隣接地を拡張して平成10年6月に建設に着手し、平成11年7月に共用が開始された。浄霊苑は、昭和62年4月に供用開始された。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

両火葬場とも、平成18年度から指定管理者により運営されている。浄霊苑については、火葬及び日常の清掃、草刈り業務等をおおふなと斎苑については、さらに自家用電気工作物や冷暖房設備、受水槽、自動ドアの保守点検、浄化槽の維持管理、施設の定期清掃、庭園樹木剪定等についても指定管理者に委託している。両火葬場は、現在、4名の従事者が交代で勤務し火葬等業務を行っているほか、指定管理者が再委託し実施している各種設備の保守点検等の立会いも行っている。高齢化社会を迎え、火葬件数が増えるとともに、火葬時間の短縮が求められるようになってきた。また、ペットを飼育する市民が増加し、動物火葬の希望が多くなっている。おおふなと斎苑は、旧施設と比較して敷地面積及び施設規模とも拡大するとともに、付帯設備も増加したことに伴い、管理、運営のためには多くの人員を要し、設備の保守点検も専門業者を必要とする状況にある。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

火葬場は、亡くなられた方と最後のお別れをする場所であり、遺族にとっては、深い悲しみに包まれる特別な場所で、感情が激しく変化する状態にもなるため、火葬従事者の言葉遣いや態度には、特に気を付けた行動が求められている。

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 火葬場施設を適切に管理することは、周辺地域の環境保全につながり、良好な生活環境の確保に結びつく。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 火葬場経営は、自治体が行うのが一般的であり、特に地方ほどその傾向が強い。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 現在、住民からの苦情もなく、また、トラブルもなく管理、運営が行われており、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由] 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 火葬等業務を含め、各種設備の保守点検等の委託業務が適正に行われ、また施設の修繕も計画的に実施しており適切である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 市内には、市営火葬場以外に火葬業務を行っている民間施設はない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 類似事業はないことから、統廃合はできない。 ☒ 他に手段がない ⇒ [理由]
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 事業費は指定管理者への委託料と施設の保守及び修繕料、燃料費が主であり、削減の余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 平成18年度から指定管理者制度により業務を実施しており、適正な事業費での運営であると考え。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] 事業の内容が一部の受益者に偏っていない不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 現在、火葬に平均で1件あたり30,000円弱の経費がかかっている。現使用料を決定する際も、当時、単純計算で1件あたりの火葬経費が30,000円以上かかる状況にあったことから、無料であったものを有料とすることとしたが、市民誰もが死を迎え、火葬場を使用するという考えと社会状況を考慮して今の使用料となったため適切と考える。

事務事業ID	1446	事務事業名	火葬場管理運営事業
--------	------	-------	-----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 火葬等業務のほかに、火葬炉の保守点検を除く各種業務について、18年度から指定管理者制度による管理運営を図っており、適切な事業運営が行われている。施設が2つあるために効率の面で検討すべきとの見方もあるが、東日本大震災発生時には死亡者が多く、当市の施設だけでは火葬が追いつかず、他の自治体に火葬を依頼しており、今後も災害等不測の事態への対応なども考慮する必要がある。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 火葬場は、おおふなと斎苑と浄霊苑の2施設があり、火葬の全体件数が増加している中で、浄霊苑での火葬は年々減少傾向にあり、施設も老朽化してきているが、三陸地区の住民が利用していることや災害等不測の事態への対応等を考慮し、現状の運営を維持していく。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

(職名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	市民生活環境課長
-------	----------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)
- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている
- ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | | |
|---------|--|----------------------------------|
| ① 目的妥当性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(3) 評価結果の根拠と理由

全体的な総括は十分行われており、適切な事務執行がなされている。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持
 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)

(上記方向性に対する具体的な内容)

近年、浄霊苑での火葬は減少傾向にあり、施設も老朽化してきていたが、東日本大震災では多数の死亡者を火葬しなければならず、2施設体制でも追いつかない状況であったことから、今後もこうした不測の事態への対応も考慮していく必要がある。このため、当面、現状どおり継続して運営を行っていく。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項